

緑茶用極晩生品種 ‘おくはるか’

冬期の寒干害や春期の晩霜害にとっても強い品種です。

特徴

- ◎ 摘採期が‘やぶきた’より7から10日遅い極晩生品種であるため、摘採作業労力の分散、茶工場の稼働率向上が期待できます。
- ◎ 寒干害や春期の低温被害がほとんど発生せず、収穫期の年次変動も少ないため、毎年安定した品質と収量が確保され、茶業経営の長期的な安定に寄与できます。
- ◎ 製茶品質の特徴として、これまでの緑茶用品種とは異なる独自の桜葉様香気を有します。
- ◎ 全国で栽培可能で、特に中山間・冷涼茶産地、さらに防霜ファン未設置茶園への導入が効果的です。

品種名	一番茶 低温障害芽率	一番茶			摘採期 年次差(日)
		萌芽期	摘採期	収量(kg/10a)	
おくはるか	5%	4/27(+9)	5/25(+9)	666	3
やぶきた	36%	4/28(0)	5/16(0)	500	8
さやまかおり	21%	4/16(-2)	5/13(-2)	660	6



一番茶摘採期の新芽

左:「おくはるか」、右:「やぶきた」
上:冬期寒干害程度、下:春期晩霜害程度

